

■図書委員会

図書委員会は年4回開催され、図書室の運営に関する課題や問題を討議し決定しています。

当院では開院当初より一貫して教育が重視されてきています。図書委員会は、卒後教育に役立つ教科書やビデオ教材にインターネットを通じて病棟・外来で容易にアクセスできる環境を整えることを通して、医療の質の向上、evidenceに基づいた医療の実践に貢献しています。

一方で最新の学術論文が掲載されるジャーナルの価格、とくに海外のジャーナルの価格、は毎年上昇しており、問題となっています。そのため、各部門から依頼のあるジャーナルの新規購読については、費用の面でお断りせざるを得ないことが大半です（あるreviewを中心とした有名雑誌では、その1誌だけで年間購読料が220万円を超えます）。また、購読費用の上昇に対応するため、利用率が低い雑誌や発行後1年程度で無料で閲覧可能になる雑誌は購読中止とせざるを得なくなっています。当院の学術活動は徐々に活発化しており、論文（英文、和文）も増え、国際的な一流誌に掲載される論文も少なくありません。研究を学会発表だけで終わらずに、論文の形で残すことは、医学・医療の発展にとって重要ですし、当院のような施設ではこうした形での社会貢献も求められています。研究を論文としてまとめる際には、多数の文献にあたることが必須ですので、図書委員会もできるだけ質の高い論文に容易に、また継続してアクセスできるような環境を整えていく予定です。

2020年の委員は、菊池放射線科顧問、片多卒後研修センター長（9月まで）、吉田卒後研修センター副センター長（10月から）、本城消化器外科部長、安田看護管理部副部長、高倉医療技術管理部長、池谷継続学習センター長、関図書室司書でした。

図書委員長 大塚伊佐夫